

会員各位

(社) 日本リモートセンシング学会

会長 六川 修一

### 東日本大震災における当学会の活動

2011年3月11日14時46分18秒(JST)、宮城県牡鹿半島沖130km、深さ24kmを震源とする「東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0、最大震度7の激震と共に巨大津波を引き起こし、更には、福島第一原子力発電所事故をも誘発した「東日本大震災」として、日本に未曾有の被害をもたらしました。

今回の震災では、これまでの経験を生かし、被災前後の観測画像による被災状況確認、巨大津波による浸水域の把握等でリモートセンシングデータが実利用に供されました。また、住家被害認定の迅速化の為に衛星画像が利用され、損害賠償支払い時間の短縮にも貢献する等、生活に密着した利用もなされました。一方、地震による地殻変動では、電子基準点を利用した計測に加えて、観測衛星データを利用した差分干渉解析が地殻変動の面的把握に利用される等、測位衛星との複合利用も行われました。

(社) 日本リモートセンシング学会は、リモセン技術の実利用普及を目指して、予てより実利用委員会を組織し法人会員を中心として活動を続けてきました。この度の東日本大震災に際しても学会ホームページに「航空機や衛星によるリモートセンシングデータのリンク集」を立ち上げ、5月に開催した春季学術講演会では、法人会員が行ってきた震災対応のリモートセンシング技術を中心とする支援活動を報告致しました。そこではこれまでの一連の活動の重要性や意義を再確認するとともに、活動結果から得られた新たな知見を学会員、法人会員と共有するための特別セッション(\*)を開催することによって、被災地の一日も早い復旧と復興を支援して参りました。

更に、今年7月に発刊した学会誌 Vol. 31 No. 3 には、ASTERの熱赤外センサ、ひまわり7号(静止気象衛星)及び高分解能衛星を使用した災害把握の可能性や適応性を速報として紹介することにより、衛星画像の有効性を示しました。

当学会では、これらの活動を通じて今後想定される大規模震災の発生に対し、その予兆監視、減災対策等リモートセンシング技術を通じて社会貢献を推進する道筋を会員の皆様と共に考えていきたいと思っております。

(\*) 以下は、5月に開催した春季講演会での特別セッションの各社発表資料です。

(株)パスコ:パスコの災害モニタリング

[http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku\\_jyohou/pdf/report-pasco.pdf](http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku_jyohou/pdf/report-pasco.pdf)

国際航業:マルチプラットフォーム衛星画像とシミュレーションによる東日本大震災の被害状況把握

[http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku\\_jyohou/pdf/report-kokusai.pdf](http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku_jyohou/pdf/report-kokusai.pdf)

アジア航測:マルチプラットフォーム・センサを用いた東日本大震災の被害情報収集

[http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku\\_jyohou/pdf/report-asia.pdf](http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku_jyohou/pdf/report-asia.pdf)

ESRI-Japan:EMF Emergency Mapping Team@内閣府 [http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku\\_jyohou/pdf/report-esri.pdf](http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku_jyohou/pdf/report-esri.pdf)

中央開発(株):作付け可能農地の概定調査 ～東日本大震災より～

[http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku\\_jyohou/pdf/report-cyuou.pdf](http://www.rss.j.or.jp/sinntyaku_jyohou/pdf/report-cyuou.pdf)